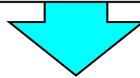


学校教育目標
元気で生き生きとした心豊かな子ども ○考えよう ○やりぬこう ○助け合おう ○きたえよう

令和6年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に基づき、指導方法を工夫改善した授業の展開 ・適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習の充実 ・児童が主体的に学習に取り組み、学びを豊かに表現するための、思考力（自分の考えを根拠明確にできる力・自分の考えを説明できる力）の育成 ・一人1台端末の効果的活用と既存の資料活用の選択力の育成

指導の重点（各教科）	指導の重点（総合的な学習の時間）
<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1台端末や図書資料を生かした調べ学習を取り入れ、児童自らが設定した課題を主体的に追究し、調べたことや考えたことを多様な方法で表現する探究的な学習を推進する。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ・2学期制の特徴を生かし、年間を通して系統性を重視した学習計画を計画し、学力の定着を図る。 ・任期付短時間勤務教員が算数科の授業に入り、支援の必要な児童に対して個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を生かし、児童の一人ひとりの学習状況に応じ、発展的な学習などの学習活動を取り入れる。 ・教科担任制を高学年から段階的に実施することにより、授業の質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導する前に評価計画の内容を確認し、毎時間の授業の評価ができるようにする。 ・児童に学習状況の評価を伝えることで、児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・授業の評価を指導者自身の授業改善に生かす。
表現力の育成	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の学び合いの場を設定し、自分の考えを相手に伝える学習機会をつくる。 ・自分の考えをすすんで伝えられるよう指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室前方の掲示物を減らし、視覚的な刺激の少ない環境を作る。また、児童一人ひとりに配慮した座席を設定する。 ・児童一人ひとりの学習進度や興味に応じて、一人1台端末を活用した個別最適な学びを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを配信し、ねらいや方法を周知する。年2回、家庭学習強化活動を実施し、結果の考察と改善提示を行う。 ・探究的な学習におけるノート指導を充実させ、復習や自主学習に活用できるようにする。

2 各教科における授業改善プラン

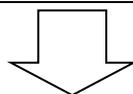
(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点	
①文章を書く力を身に付けさせたい。そのために日常から書いたり、友達の書いた文章を読んだりする活動を行い、適切に表現する力が身に付けられるようにする。	
②叙述を基に、文章を正しく読む力を身に付けさせたい。そのために、以下の取り組む。	
・各学年に応じた音読の指導を行い、正しく内容を読み取ること	
・読書の機会を増やして語彙を増やすこと	

現状分析

区学力調査の結果分析			教科指導上の課題
学年	目標値 達成率	課題	
1			<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に伝える能力を育む指導をする必要がある。 相手の考えを聞き、受け止められるようになるための指導をする必要がある。
2	75.3%	<ul style="list-style-type: none"> 書くこと 読むこと 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、自分の思いをもって文章を書けるようになるための指導が必要である。 語のまとまりに気を付けて音読し、順序を考えて読むことができるようになるための指導が必要である。
3	81.6%	<ul style="list-style-type: none"> 書くこと 読むこと 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を書く際に、根拠を基に自分の考えを書けるようになるための指導が必要である。 語彙を増やし、表現の幅を広げる指導が必要である。
4	85.1%	<ul style="list-style-type: none"> 書くこと 読むこと 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明らかにして、自分の考えを書く力を付けるための指導をする必要がある。また、語彙を増やすための指導をする必要がある。 叙述を基に、文章を正しく読み、内容を理解する力を付ける指導をする必要がある。
5	84.6%	<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章の読み取り 情報を基にして文章を書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書けるように指導していく必要がある。 文章の構成を捉え、要旨をまとめることができるよう指導していく必要がある。
6	85.4%	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを文章に表すこと 話したり聞いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じ、効果的な構成を考えながら、文章を書く力を付けることができるよう指導していく必要がある。 自分の思いや考えを伝え合う力を高めたり、相手の話の要点を捉えたりする力を付ける必要がある。



授業改善プラン

1・2年生	<p>(1年生) 課題設定の際に相手意識をもたせ、「伝えたい」という意欲をもてる学習課題を設定する。また、課題解決の際には話し合い活動を多く取り入れ、意見を伝え合う機会を増やす。</p> <p>(2年生) 書くことは、例文を基にして文章を書いたり、友達と書いた文章を読み合ったりすることで、自分</p>
-------	---

	<p>の思いをもちながら協働的な学びができるように学習を進めていく。交流の際は、視点を示し、よいところを見付け、自分の文章にも生かせるようにする。読むことは、何度も音読したり、叙述に即して読み取ったりして、分かったことを共有する。</p>
3・4年生	<p>(3年生)(4年生)自分の考えを書くときには、その根拠を明らかにして書くことを指導する。そのためには叙述を正しく理解し、読み取る力が必要になるので、言葉にこだわって読むことを丁寧に指導する。分からない言葉はすぐに辞書を引かせることで語彙を増やし、読む力の向上につなげる。</p>
5・6年生	<p>(5年生)文章を書く際に主張とそれを支える根拠を明確にできるよう指導する。他教科でも構成を意識して書くよう声掛けする。また、要旨を書く際には、文章全体の構成を捉えられるよう読み取りを丁寧に行う。更に、必ず要旨例を提示し書き方が分からない児童がイメージをつかめるように指導する。</p> <p>(6年生)事実と感想、意見などを区別して書くように声掛けする。また、目的に応じて、自分の考えを明確にし、文章の構成や効果的な表現を考えて書くことができるよう指導する。文章を書く学習の際には、互いの文章を読み合う活動を取り入れ、お互いに分かりやすい文章表現ができるようにする。</p>

(2) 社会科

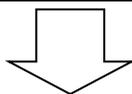
【小学校】

社会科における指導重点

一人1台端末を中心とするICT機器を活用し、社会的な見方・考え方を働かせながら地図や図表、写真などの各種資料を読み解くことを通して、社会的事象についての理解を確かなものとする。その際、資料を時間・空間について比較したり、関連付けたりしながら考える機会、学習問題について調べて分かったことをまとめて発表する機会を設ける。

現状分析

学年	教科指導上の課題
3	<ul style="list-style-type: none">・ 社会的事象について、人々の生活との関連を踏まえて理解させる必要がある。・ 調査活動や資料から必要な情報を調べまとめる技能を身に付けられるようにする必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none">・ 社会的事象を人々の働きや努力と関連付けて理解させるよう指導する必要がある。・ グラフ等の資料から必要な情報を読み取る技能を高めるよう指導する必要がある。
5	<ul style="list-style-type: none">・ 社会的事象について、グラフ等の資料を活用し、情報を比較したり関連付けたりしながら、調べたりまとめたりする技能を身に付けられるよう指導する必要がある。
6	<ul style="list-style-type: none">・ 社会的事象について、年表や資料を活用し、情報を関連付けて考えたり比較したりしながら、調べたりまとめたりする技能を身に付けられるよう指導する必要がある。



授業改善プラン

3・4年生	<p>(3年生) 一人一台端末を利用して、資料や調査活動から気付いたことを共有したり比較したりする活動を通して学習への理解を高める。また、まとめ方をグループで個人だけでなくグループや全体で考えさせたり、よさを伝え合ったりする活動を通して表現力を高める。</p> <p>(4年生) 一人1台端末を利用して学習問題を作る際の考えを共有したり、映像資料等を配付したりすることで学習への理解を高める。映像資料等を用いた調べ学習では、資料を読み取るポイントを確認し、気付いたことを表現していく。また、互いの調べた内容を共有することで理解を深める。</p>
5・6年生	<p>(5年生) 一人1台端末を使って学習問題をつくり、資料から分かったことなどを共有したりする活動を通して、児童同士の学び合いの時間を確保しながら自分の言葉でまとめたり表現したりする力につなげられるようにする。自分の意見だけでなく、友達の見解を共有することで、考えを深められるようにする。また、単元の最後にミライシードを活用することで基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <p>(6年生) 一人1台端末を使って資料から分かることを読み取ったり、友達と意見を共有したり広げたりする活動を通して、自分の言葉でまとめたり表現したりする力を高められるようにする。また、歴史単元では比較するものなど視点を明確にすることによって、資料を読み取る技能を高められるようにする。単元の最後にはミライシードを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p>

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ①基礎的・基本的な計算力を身に付けさせる。
- ②問題を読み取る力を身に付けさせる。
- ③問題を読み取り、式や図に表しながら考えをまとめたり説明したりする力を身に付けさせる。

現状分析

区学力調査の結果分析			教科指導上の課題
学年	目標値 達成率	課題	
1			・文章問題において、問題の場面を読み取る力を高めるような指導の必要がある。
2	69.1%	・文章題 ・水のかさや長さなどの量的感覚の問題	・問題文から、必要な情報を読みとり、正しく立式できる必要がある。 ・量的感覚をより身に付けていく必要がある。
3	83.9%	・図形問題の解決 (作図) ・数学的なものの見方・考え方	・図形問題を正しく判断し、的確な作図をすることに課題がある。教師だけでなく児童もICTを活用し、道具を用いた作図の仕方を適宜確認していく必要がある。 ・ノートやICTを活用し、互いの考え方を見合い、様々な考え方で解こうとする意欲や力を伸ばす必要がある。
4	90.8%	・文章問題 ・重さ	・問題文を正しく読み取り、立式する力を伸ばしていく必要がある。 ・はかりの針が指している重さを読み取ることに課題がある。重さの単位など適宜確認し、はかりの針の読み方を練習していく。
5	61.5%	・図形問題の解決 (作図、計算)	・図形問題を正しく判断し、的確な作図をしたり、かさを求めるために立式したりする力を更に伸ばしていく必要がある。
6	74.8%	・速さの問題の解決 ・データの活用の問題の解決	・問題文を正しく読み取り、立式する力を伸ばしていく必要がある。 ・立式して解くだけでなく、なぜそのように立式したのか自分の考えを説明する力を伸ばしていく必要がある。

授業改善プラン

1・2年生	(1年生) 題意を確認する際に挿絵や半具体物を用意し、イメージしやすくすることで、問題を理解し解決する力を育む。 (2年生) 問題文を丁寧に読み、必要な情報に色付けるなどすることで、問題となる場面をイメージしやすくする。また、実物や具体物などを用意し、どれくらいの大きさ、長さなどを想像しやすくする。
3・4年生	(3年生) 問題文の「分かっていること」に線、「求めること」に波線を引くことで、問題文の意味を理解した上で、問題に取り組ませる。また、授業前には必ず前時の復習をすることで学習内容の定着を深める。 (4年生) 問題文の「分かっていること」に線、「求めること」に波線を引き、見通しをもって自力解決に向かわせる。また、児童間で学び合いの時間を設けることで理解度を高める。

5・6年生	<p>(5年生) デジタル教材を活用し、全体で「分かること」「求めること」を確認し、見直しをもってから自力解決に取り組むことができるようにする。一人1台端末を活用して互いの立式、図など一覽で確認・共有し、意見交換や説明の時間を十分に確保する。授業の中で課題解決に必要な計算や公式を確認し、ミライスードなどを利用して習熟を図ったり学び直しの機会を設定したりする。</p> <p>(6年生) デジタル教材を活用することで、興味・関心を高めて問題に取り組めるようにする。一人1台端末を活用し、自分の考えを表現したり、友達と考えを共有したりすることで定義や公式の言葉だけでなく、本質的な理解の定着を図る。</p>
-------	--

(4) 理科

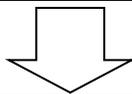
【小学校】

理科における指導の重点

- ①理科の特性に応じた言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定するとともに、児童一人ひとりの思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- ②探究の過程や自己評価を重視し、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実に努め、主体的・対話的で深い学びを実現する。

現状分析

学年	教科指導上の課題
3	・生活経験から問題を設定する力を身に付ける指導が必要である。
4	・理由のある予想を思考、判断、表現する力を身に付ける指導が必要である。
5	・予想を確かめるための観察・実験の計画を立案する力を身に付ける指導が必要である。
6	・観察・実験の結果から考察する場面において、思考、判断、表現する力を身に付ける指導が必要である。



授業改善プラン

3・4年生	(3年生) 単元導入時に、具体物やデジタル教材などを活用した自然事象を観察させ、関係性や傾向から問題を設定できるようにする。単元末にデジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。 (4年生) 観察した自然事象や既習事項、生活経験を想起させ、理由のある予想を思考、表現できるようにする。単元末にデジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。
5・6年生	(5年生) 観察・実験の結果に見通しをもたせることで、検証できる観察・実験の計画を立案できるようにする。単元末にデジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。 (6年生) 観察・実験の結果を分析・解釈し、問題や予想に対して検討や考察させ、表現できるようにする。単元末にデジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。

(5) 生活科

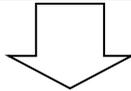
【小学校】

生活科における指導の重点

- ①児童が対象に直接働き掛ける具体的な活動や体験を設定することで、表現したいという意欲が生まれるようにする。
- ②言葉などによる振り返りや伝え合いの場を適切に設定する。

現状分析

学年	教科指導上の課題
1	・観察や体験での気づきを表現したり、振り返ったりすることが苦手な児童がいる。そのため、気付いたことの表現方法を具体的に指導する必要がある。
2	・自然への関心は高いが、生活経験に個人差が見られるため、生活経験の差を配慮して指導する必要がある。 ・観察や体験での気づきを表現したり、振り返ったりすることが苦手な児童がいる。そのため、気付いたことの表現方法を具体的に指導する必要がある。 ・活動や学びを自分の生活と結び付けようとする意識を高める必要がある。



授業改善プラン

1・2年生	(1年)学習のまとめの際には、ペアでの話合いや学級での全体共有をもとに多くの表現方法を提示する。また、作成する際にも児童間で協力しながら作成を進めることで表現する力を豊かにする。 (2年)季節の行事、動植物との触れ合い、観察活動等、具体的な活動や体験を増やすことで個人差による生活経験や体験の不足を補う。また、オクリンクの発表ノートを活用し、写真を拡大したり、気づきを書き込んだりして、友達と観察の視点や表現の仕方を学び合う。
-------	--

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点

表現及び鑑賞の活動を通して、豊かな情操を育む。

- ①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する。音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ②音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

現状分析

学年	教科指導上の課題
1	・歌やリズムに親しみ、友達と共に楽しんで音楽に親しめるようにする必要がある。
2	・鍵盤での基本的な演奏や歌唱に対して自信がもてるよう指導する必要がある。
3	・歌唱、器楽とも意欲的に取り組んでいるが、リコーダーの基礎的な技能を定着させる指導の必要がある。
4	・歌唱、器楽とも意欲的だが、どのような声や音色で演奏するとよいか考えさせる指導の必要がある。
5	・歌唱、器楽とも意欲的だが、自ら進んで表現することへの自信がもてるよう指導する必要がある。
6	・歌唱に対しては前向きだが、リコーダーの技能の差が大きい。 ・集中力を持続して練習に取り組めるように指導を工夫する必要がある。

授業改善プラン

1・2年生	(1年生) 日々の活動でも歌を歌う機会を増やし、歌唱への親しみを育む。また、ペアで演奏を見合い、「よいところ」「直すところ」を伝え合うことで協働的な学びを進めていく。 (2年生) 日々の活動で歌唱への親しみを育む。ペアで演奏を見合い、「よいところ」「直すところ」を伝え合うことで協働的な学びを進めていく。また、自分で選択できる機会(楽器、歌など)を増やし、個別最適な学びを進めていく。
3・4年生	(3年生) リコーダーを演奏する時の姿勢や運指、奏法を丁寧に確認しながら指導する。机間指導、個別指導を毎時間確実に行う。リコーダーの運指、奏法等は一斉指導で行った後、ペアで確認させる。 (4年生) ペア学習を取り入れることで、協働的な学びを進めていく。また、ペアや小グループで発表することで友達のよいところに気付かせ、表現に対する意欲を高めていく。必要に応じて個別に支援を行う。運指、奏法等は一斉指導で行った後、ペアで確認させる。
5・6年生	(5年生) 小グループやペアで発表する機会を多く設けることで、友達のよいところに気付かせ、歌唱や器楽の表現に対する意欲を高めていく。 (6年生) 曲を短く区切りながら、スモールステップで指導していく。ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、協働的な学びを進めていく。

(7) 図画工作科

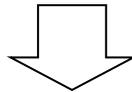
【小学校】

図画工作科における指導の重点

表現及び鑑賞の活動を通して材料や用具を正しく使い、創造的につくったり作品に表現できたりするようにする。その中で、自身の発想を表現し、友達と共有することで、考えを深められる指導を行う。

現状分析

学年	教科指導上の課題
1	・すすんで創作活動を楽しみ、はさみやのり、絵の具などの用具や道具を正しく扱う力を高めるための指導が必要である。
2	・友達と交流する中でより良い作品を作ること楽しみ、道具の基本的な使い方について指導する必要がある。
3	・感じたことを楽しく表すために、手や体全体の感覚を働かせ、材料や用具に慣れるよう指導する必要がある。
4	・形や色を生かし、手や体全体を十分に働かせ、材料や用具を適切に扱えるように指導する必要がある。
5	・形や色について、経験を生かし、材料や用具を組み合わせ活用できるように指導する必要がある。
6	・形や色についての経験や技能を総合的に生かし、構成したり考え合わせたりできるように指導する必要がある。



授業改善プラン

1・2年生	(1年生)生活経験に差があるため、初めて使う道具は使い方を確認し、安全面の注意や正しい用途を伝える。書画カメラで道具や用具の使い方を示し、視覚的に理解できるようにする。必要に応じて個別に支援を行う。また、導入時に参考作品を見せることで児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2年生)道具の使い方や扱い方を書画カメラを用いて視覚的に示す。学習過程を最初に示し、ゴールを思い描きながら活動に取り組むことができるようにする。友達の考えを聞いたり相談したりしながら、より良い作品になるように考えることができるようにする。
3・4年生	(3年生)安全指導を徹底し、ねらいを端的に定め、スモールステップで確実に技能を習得できるように、拡大鏡で電子黒板で手元を提示したり、参考作品や発想が広がる資料を提示し、「できる」「分かる」を大切に、意欲が高まる指導をする。自分だけの色、イメージをもてるよう個別に対話していく。 (4年生)意欲の高さが丁寧さにつながるよう、机間指導し、個別に指導する。技能、工夫や発想のよさを称賛し、クラス全体に拡大鏡で電子黒板でフィードバックし、タブレットやふりかえりシートでもお互いのよさを発見し合えるよう環境を整える。
5・6年生	(5年生)既習事項を組み合わせ、自身の作品の作品が更に良くなるにはどうしたらよいか問い掛けながら、発想が広がる資料やクラスメイトの作品を紹介し、自己の内面を深く見つめられるよう指導する。熟考、没頭、集中を称賛し、お互いの作品に発見や驚きをもてるよう ICT を活用し、共有、協働する。 (6年生)ねらいを明確にし、ゴールへの意欲、見通しや時間管理ができるよう作品や参考資料を拡大鏡で電子黒板で示す。自身の知らない内面が表れるような作品作りができる教室、集中力が高まる風土を築く。作品から内面の発見、課題やよさを認知し、成長が実感できるよう個別に対話して進めていく。

(8) 家庭科

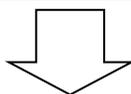
【小学校】

家庭科における指導の重点

体験的な活動や問題解決的な学習を充実させ、正しい技能や知識を身に付けられるようにする。その中で、自身の考えを表現し、友達と共有することで、考えを深められる指導を行う。また、学習内容を日常の生活と関連付けて考えさせ、実践しようとする態度を育成する。家庭と連携を取りながら実生活での実践まで取り組ませ、最終的には、自分と家庭や地域とのつながりを考えられる力を付けることを目指して指導する。

現状分析

学年	教科指導上の課題
5	<ul style="list-style-type: none">・被服、調理ともに技能の差が大きい。被服についての実習では技能が身に付くまでに更に時間を要すると思われる。ポイントを意識し、集中して取り組ませる必要がある。・調理実習では家庭生活と関連付けて考えさせ、実践しようとする態度の向上を図る必要がある。
6	<ul style="list-style-type: none">・被服単元の実習では技能面の個人差が大きく、意欲低下につながりつつある児童も見られる。技能を補い、伸長する指導を行いつつ、実生活との関連を理解することで意欲を向上させる指導の必要がある。



授業改善プラン

5・6年生	<p>(5・6年生) 実習では、2人1組で学習に取り組み、互いに教え合うことで技能面で足りない部分を補ったり、確認し合って進めることで正しい技術を習得したりできるようにする。また、実生活との関連について各単元で確実に児童に考えをもたせ、友達と共有することで考えを深め、意欲につながるようにする。</p> <p>個別の支援を行いつつ、手縫いやミシンの基本的な使い方などの動画資料を一人1台端末で、いつでも児童自身で参照できるようにする。そうすることで、完全に習得できていない技能についても確認しながら、1つずつ確実に取り組めるようにする。</p>
-------	--

(9) 体育科

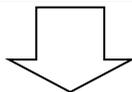
【小学校】

体育科における指導の重点

- ①授業時間内での運動時間を適切に確保し、基本的な技能の定着を図る。
- ②児童全体の体力向上を図るため、準備運動・体づくり運動などで基礎的な動きを取り入れる。
- ③一人1台端末を活用しながら、交流し合いより良い動きを身に付けるための時間を設定する。

現状分析

新体カテストの結果分析			教科指導上の課題
学年	平均値との差	課題	
1	男：-7.57 女：-9.24	立ち幅跳び	・体を上手に使い、強い力を出すことに課題がある。 ・体全体を使い、力に変えることを知る必要がある。
2	男：-9.24 女：-11.39	立ち幅跳び	
3	男：-10.79 女：-9.13	シャトルラン	・垂直跳びやケンケン跳びなどの運動を、連続してできるだけ速く行う力を向上させる必要がある。 ・体の正しい使い方を学び、技能面を向上させる必要がある。
	男：-14.09 女：-12.99	立ち幅跳び	
4	男：-6.2 女：-4.4	反復横跳び	・敏捷性や体の支持に必要な筋力を向上させる必要がある。 ・運動技能を高めたい気持ちはあるが、よりよい動きに必要な技能の理解と技能取得のための思考面に課題がある。
	男：-5.4 女：-4.9	立ち幅跳び	
5	男：-3.35 女：-1.14	ボール投げ	・運動が好きな児童は多いが、よりよい動きを追究しようとする取り組んでいる児童は少ない。 ・自分の技能を高めようとする児童は少ない。友達同士で伝え合ったり、児童の思考を引き出ししたりするための指導の必要がある。
	男：-7.97 女：-3.42	シャトルラン	
6	男：-1.65 女：-0.39	握力	・運動が好きな児童は多いが、自分自身でよりよい動きを追究したりより高みを目指して学習に取り組もうとする児童は少ない。 ・自分の苦手な運動領域に対して、向上心をもって取り組む児童が少ない。十分に思考できる活動を設定し、児童の思考を引き出ししたり、深めたりするための指導の必要がある。
	男：-6.99 女：-10.91	立ち幅跳び	



授業改善プラン

1・2年生	(1年生)様々な動きを経験する中で、体の使い方を学び、感覚、神経系を鍛える。また、運動に親しみ、全力で取り組もうとする素地をつくる。 (2年生)固定施設を使った運動を授業に取り入れたたり、いろいろな感覚作りの動きを行ったりして多様な動きを身に付けられるようにする。
3・4年生	(3年生)新しい技に挑戦する意識の向上と自己の動きの振り返りのため、手本の動画を視聴したり、自分の動きを撮影したりする。単元の最後には発表動画を撮影することにより、動きを高めていきたいという意識をもたせる。

	<p>(4年生)一人1台端末を利用して自分の活動の様子を記録したり振り返りを記録したりすることで自身の活動の記録を把握できるようにする。運動技能のコツをあらかじめ伝えそれぞれの課題を把握しやすくする。補助運動の中に筋力を高める運動を取り入れていく。</p>
5・6年生	<p>(5年生)タブレット端末を使って動画を撮影し、自分の動きを客観的に捉えられるようにすることで思考を深めるための手掛かりとする。振り返り等もタブレット端末を使い、児童相互で見合うことでよりよい動きを追究し、話し合いを通して様々な動きを試すことにつなげる。</p> <p>(6年生)一人1台端末で動画を撮影し、繰り返し再生したり、スローにしたりすることで、自身やチームの動きを客観的に正確に捉え、思考の手掛かりとする。また、個人の考えを全体で共有する場面を設け、話し合うことで更に考えを深め、様々な動きを試すことにつなげる。</p>

(10) 外国語活動・外国語科

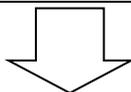
【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点

外国語活動・外国語科の学習を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育めるようにする。アイコンタクトやジェスチャーなども使い、自分の思いを相手意識をもって伝えられるように指導する。ALT な外部人材活用し、多文化共生が進んだ社会の様々な場面で必要となるコミュニケーション能力の向上を目指して指導を行う。

現状分析

学年	教科指導上の課題
1	・外国語でコミュニケーションをとることが楽しいと思う指導の工夫が必要である。
2	・外国語でコミュニケーションをとることを自信をもってできるよう指導する必要がある。
3	・外国語に親しみ、学習した会話について自信をもって発話できるように指導する必要がある。
4	・外国語の学習にすすんで取り組む児童が多いが、表現について理解していないために、コミュニケーションをとるときに消極的になってしまう児童も多く見られるため、反復練習が必要がある。
5	・書く活動では4線を意識せずにアルファベットを書いてしまう児童がいる。教科書等を使いながら、文字の特徴に気付くことができるよう指導する必要がある。 ・聞く活動では聞き取れない表現があるとすぐに諦めてしまう児童がいるため、知っている単語や表現から大まかな内容を推測できるよう指導する必要がある。
6	・聞く活動では、既習表現を大まかに捉えることはできるかが、聞き慣れない単語が表現があると、聞くことを諦めてしまう児童がいる。 ・自分が分かる表現から大まかな内容を推測する力を伸ばすとともに、聞き取れる表現を増やしていく必要がある。



授業改善プラン

1・2年生	(1年生) 外国語の歌を歌ったりゲームをしたりすることを通して、外国語に慣れ親しむ。また、日常的にALTと触れ合うことで外国語でコミュニケーションをとろうとする素地を育む。 (2年生) ALT と繰り返し表現の練習に取り組みながら、外国語での表現に慣れ親しむ。また、歌やチャンツ、ゲームを行いすすんで外国語を話そうとする態度を養う。
3・4年生	(3年生) 全体で学習した内容を使い、外国語で友達と交流する機会を多く設定する。デジタル教材を積極的に活用し、発音が耳になじむように繰り返し練習する。 (4年生) デジタル教科書や絵カードなどを活用して、繰り返し聞いたり声に出したりすることで表現の理解を定着させる。簡単な挨拶や語句の表現を練習する際は、教師1人対児童全員の繰り返しだけでなく、児童同士でも練習させることで、表現に慣れることができるようにする。
5・6年生	(5年生) 書く活動では、アルファベットカードや一人1台端末によるアルファベットトレーニングを通して、各アルファベットの高さや大文字と小文字の違いに気付かせるようにする。また、定期的に確認テストを行う。聞く活動では、聞き取るべき表現を絞って児童に提示したり、楽しめるような活動の工夫をしたりしながら聞く活動に取り組めるようにする。 (6年生) 聞き取るべき表現を絞って児童に提示したり、ワークシートの構成を工夫したりして、聞く活動に楽しく取り組めるようにする。細かい表現ではなく、やり取りの大まかな内容を確認しながら何度も聞かせるために、ALT やデジタル教科書の音源を活用する。また、聞く前に重要な表現を確認する。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

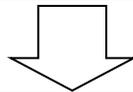
道徳科における指導の重点

- ①自分の考えをもった上で、友達の考えに傾聴し、話し合うことを通して、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ②すすんで自分の考えを発言できるようにする。
- ③児童が毎時間の道徳科の学習の学びを生かして、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・自分の考えをもたせるための指導の工夫が必要である。
- ・登場人物の心情に対して自我関与させるための手だてが必要である。
- ・児童がすすんで考えを交流し合えるようになるための指導の工夫が必要である。
- ・自己の振り返りの場面で、児童が毎時間の道徳科の学習の学びを生かして、自己の生き方についての考えを深めるための手だてが必要である。



授業改善プラン

- ・発達段階に応じて、導入で教材の内容を紹介したり、指導者用デジタルブック等を活用したりするなどして、教材提示の方法を工夫することで、登場人物に自我関与して自分の考えをもてるようにする。
- ・ペア、小グループ、全体など、様々な形態での話し合い活動を授業に取り入れ、毎回の授業で一人一回以上発言する機会を設定する。
- ・自己の生き方についての考えを深めるために、全校で共通の表示を活用する。
- ・自己の振り返りの場面で、児童同士の交流の時間を設けるなどして、ノートへの記述が書き終わった児童同士（考えが思い浮かばない児童）で話し合うことで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。